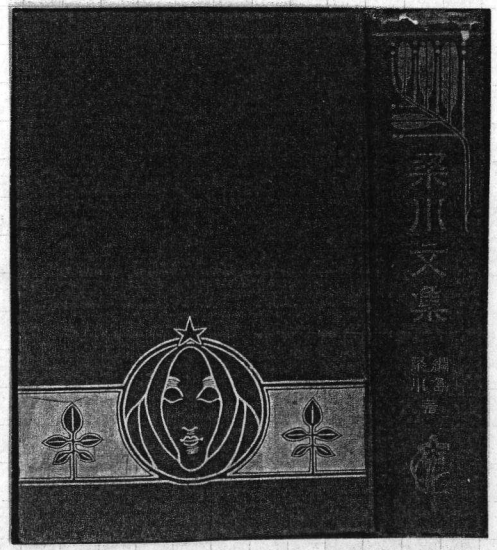
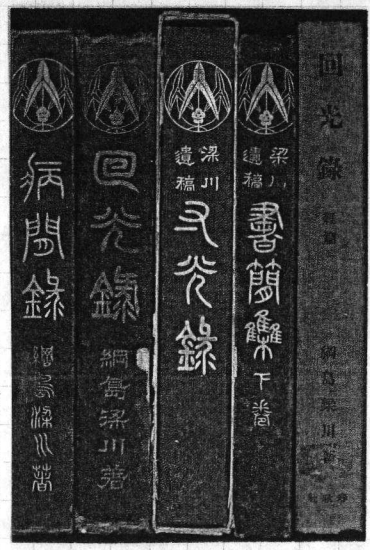


網島梁川 ひらしま 評論家。明治八年五月二十七日岡山縣生れ、四十年九月十四日歿（八七三―一九〇七）。本名榮一郎。筆名つ、え、ひやうせん、梁川子、梁川清客、行々、行々子、行々生、白熱子等。明治二十八年東京專門學校文科卒。雑誌『早稻田文學』の編輯に携はり、文藝・美術評論を發表。翌年落血。その後病床生活と共に宗教的思想を深め、自らの入見神ノ體驗を發表して反響を呼んだ。『梁川全集』全十巻別巻一（大正十年―十一年刊）がある。

縮著書『近松之研究』（坪内逍遙共編、明治二十二年十一月十五日春陽堂）、『オムン・ワトソン著 可快樂的倫理』（本名、楠譯、明治二十四年十月十二日東京專門學校出版部）、「早稻田小篇」（『梁川文集』）（明治二十八年七月十五日高有倫堂）、『回光錄』（明治四十年四月二十五日金葉文淵堂）、『春秋倫理思想史』（本名、明治四十年十一月二十五日早稻田大學出版部）、『梁川寸光錄』（明治四十一年五月二十五日網島政治編輯、獅子吼書房）、『エルネスト、ルナン著 コルナト氏耶蘇傳』（譯、安倍能成譯補、明治四十一年九月五日高有倫堂）、『梁川遺稿書簡集・下』



『回光錄』（明治四十年十一月十日杉本染江堂）、『古今漢文評釋』（本名、網島政治編輯、明治四十二年四月十二日杉本網島政治編輯、要刊、

杉本梁江堂）、『病閒錄』（訂正第十一版・大正二年一月五日）前川文  
杉本

三郎、梁川堂發兌）、『回光錄』雜篇』（大正十四年六月十一日）二百春

秋社「梁川全集」）、『網高梁川集』（安齋能成編、昭和二年九月十

四日岩波書店「岩波文庫」）等。

文獻、宇佐美葉太郎編『凡庸論評』（明治四十年四月二十五日）金尾文

淵堂）等。